

知っところ！「パラスイムクイズ！！」の答え

視覚障がい者の競泳は45m？

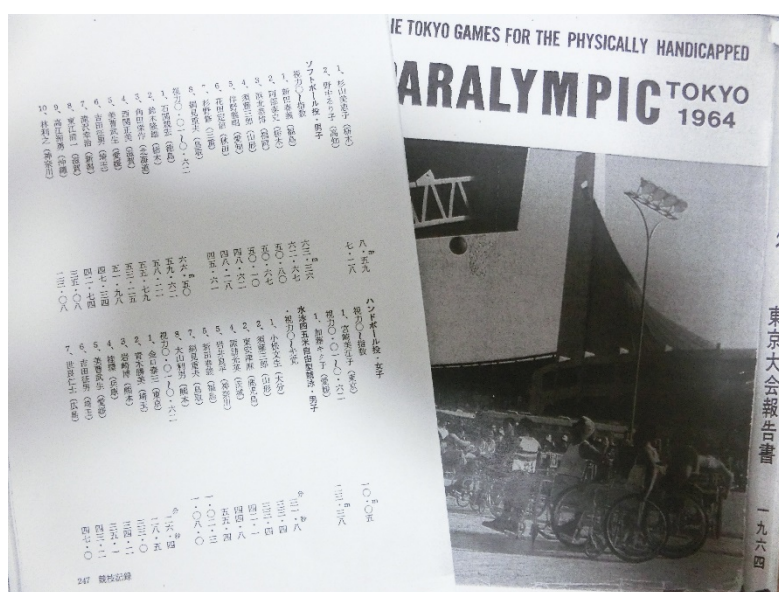
1964年に開かれた「東京パラリンピック」で生まれた「パラリンピック」は、下半身麻痺のパラプレジアという言葉の「パラ」とオリンピックをつなげた言葉というのは、ご存じと思います。

この東京大会では、それまでの「下半身麻痺者のスポーツ（当時はこれをパラリンピックと位置づけていました）」だけでなく、2部として、「その他の肢体不自由、視覚障がい、聴覚障がい」も日本人選手のみでの大会として実施しました。

パラリンピックとされた「下半身麻痺者のスポーツ」は国際大会として12回を数え、競技ルールもきっちりとしていましたが、国内の障がい者スポーツのスポーツルールは様々でした。

そんな影響でしょうか 50mプールを使っの視覚障がい者の全盲のクラスでは45mの競泳があったのです。これは、現在のように合図棒を使って合図をするということになっていなかったため安全のため、45mとしたのだと思われます。

その後、1965年から全国身体障害者スポーツ大会が開催されましたが、いつから50mになったかは謎のままです。



視力〇・〇一〇・六二

1、加藤キク子(愛媛)

水泳四五米自由型競泳・男子

・視力〇〇光覚

1、小松文生(大分)

2、須藤三郎(山形)

2、東安津麻(鹿児島)

4、諏訪光英(茨城)

5、岩井良平(神奈川)

6、新田春義(福島)

7、絹見重夫(鳥取)

8、大山利男(熊本)